

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 吉田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

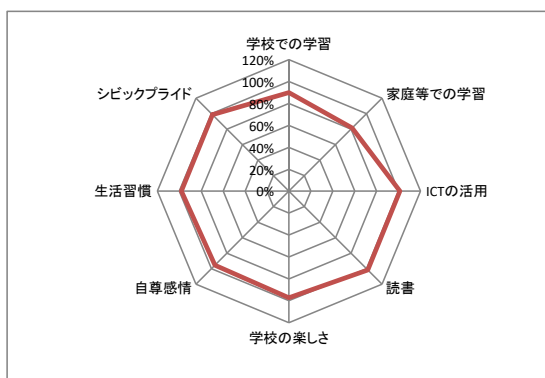
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	選択式や短答式の問題に対する無回答率はとても低い傾向にあり、問題に真摯に取り組もうとしていることがうかがえる。また、記述式の問題に対する無回答率は、全国平均と比べても高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかを選択する問題。	
	努力が必要な問題	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	選択式の問題の無回答率が低く、意欲的に取り組もうとしていることがうかがえる。また、記述式の問題に対する無回答率が、全国平均に比べ高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	四分位範囲の意味を理解し、適切に求める問題。	
	努力が必要な問題	数と数式の乗法の計算をする問題の正答率。	
英語	全体的な傾向や特徴など	全体的に無回答率は低く、意欲的に取り組もうとしていることがうかがえる。また、聞くこと、書くことの問題の正答率が、全国に比べて低い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、短い文章の概要を捉える問題	
	努力が必要な問題	情報を正確に聞き取る問題 依頼文を書く問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足しているか」や「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。 ・「授業以外での読書の時間」や「読書が好きか」との問いに対する肯定的な回答が全国平均よりも高い傾向にある。 ・「学習においてICTを活用している」と回答した割合が高い傾向にある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・学期ごとにコンクール形式で、基礎・基本の定着を図る取り組みを進める。
- ・記述式の回答に課題がみられるため、表現する活動を充実させる授業改善を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・1日1ページの学習課題や週末課題等への取り組みをさらに充実させ、より効果的な活用方法を検討していく。
- ・効果的にICT機器を活用した学習課題に取り組み、主体的な学びができるよう工夫していく。

令和5年度全国学力・学習状況調査結果(概況)

1 実施学年・調査内容

- ◇ 実施学年 市立の全小学校（126校）・関係特別支援学校（1校） 第6学年
市立の全中学校（62校）・関係特別支援学校（2校） 第3学年
- ◇ 調査内容 ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 調査集計者数 児童数 7,380人 生徒数 6,705人

3 調査日 令和5年4月18日（火）

主な結果

令和5年度	小学校 国語		小学校 算数	
	正答数	割合	正答数	割合
本市平均	9.3 / 14 問	99%	9.4 / 16 問	94%
全国平均	9.4 / 14 問		10.0 / 16 問	

令和5年度	中学校 国語		中学校 数学		中学校 英語	
	正答数	割合	正答数	割合	正答数	割合
本市平均	10.3 / 15 問	98%	7.3 / 15 問	96%	6.8 / 17 問	88%
全国平均	10.5 / 15 問		7.6 / 15 問		7.7 / 17 問	

「割合」・・・全国平均正答率に対する本市の平均正答率の割合

中学校英語の調査結果は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計したもの

英語「話すこと」調査の結果については、公表は行わない

【分析結果1（小学校）】

- 知識・技能の正答率に改善が見られる。
(国語「知識・技能」問題 R4全国比-2.7ポイント → R5全国比+0.5ポイントに改善 など)
- 記述式の問題に課題が見られる
(国語「記述式」問題 全国比-1.8ポイント、算数「記述式」問題 全国比-2.7ポイント など)

【分析結果2（中学校）】

- 知識・技能の正答率に改善が見られる。
(国語「知識・技能」問題 R4全国比-2.4ポイント → R5全国比-1.0ポイントに改善 など)
(数学「知識・技能」問題 R4全国比-5.4ポイント → R5全国比-2.0ポイントに改善 など)
- 思考・判断・表現の問題に課題が見られる。
(国語「書くこと」問題 全国比-3.4ポイント、英語「書くこと」問題 全国比-5.9ポイント など)

【分析結果3（児童生徒質問紙）】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」が、小・中ともに前年度を上回っている。
(小学校前年度比+4.0ポイント、中学校前年度比+0.3ポイント)
- 「友達関係に満足していますか」が、小・中ともに全国平均と同程度である。(新規)
- 「地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」が、全国平均と同程度である。(新規)
- 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」に、1時間以上と回答した児童生徒の割合が、全国平均を下回っている。
(小学校全国比-1.3ポイント、中学校全国比-3.1ポイント)
- 「授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」で1時間以上と回答した児童生徒の割合が、小・中ともに全国を下回っている。
(小学校全国比-8.9ポイント、中学校全国比-8.5ポイント)

【考察及び今後の方向性】

- 知識・技能の正答率に改善が見られる。
 - ・ 各学校における授業改善と補充学習の取組のさらなる推進。
- ICT機器の積極的な活用と学習習慣の定着に課題が見られる。
 - ・ 本市研究委嘱校の実践事例の研究と発信。
 - ・ デジタル教科書やドリルアプリ等、授業での活用を通して、児童生徒の自主的な学びにつなげる。

学力調査結果(経年推移) ※各教科

■ 各教科における本市と全国の平均正答率及び本市の全国平均正答率に対する割合(平成27年度～令和5年度)

小学校							中学校									
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	合計		国語A	国語B	数学A	数学B	理科	英語	合計		
H27 年度	本市	67	62	73	44	57	303	H27 年度	本市	74	63	62	38	50	287	
	全国	70	65	75	45	61	316		全国	76	66	64	42	53	301	
	対全国比	96%	95%	98%	97%	95%	96%		対全国比	97%	96%	96%	91%	94%	95%	
H28 年度	本市	70	56	76	45		246	H28 年度	本市	74	64	59	41		237	
	全国	73	58	78	47		256		全国	76	67	62	44		248	
	対全国比	96%	96%	98%	95%		96%		対全国比	97%	96%	95%	93%		96%	
H29 年度	本市	74	57	77	44		252	H29 年度	本市	77	70	62	45		254	
	全国	75	58	79	46		257		全国	77	72	65	48		262	
	対全国比	98%	99%	98%	97%		98%		対全国比	99%	98%	95%	94%		97%	
H30 年度	本市	71	54	61	50	60	296	H30 年度	本市	75	60	63	44	64	306	
	全国	71	55	64	52	60	301		全国	76	61	66	47	66	316	
	対全国比	101%	99%	96%	96%	99%	98%		対全国比	99%	99%	95%	93%	97%	97%	
H31 年度	本市	65		64			129	H31 年度	本市	69		56			51	176
	全国	64		67			131		全国	73		60			56	189
	対全国比	102%		96%			98%		対全国比	95%		93%			91%	93%
R3 年度	本市	63		69			132	R3 年度	本市	63		55			118	
	全国	65		70			135		全国	65		57			122	
	対全国比	97%		98%			98%		対全国比	97%		96%			97%	
R4 年度	本市	64		61		61	186	R4 年度	本市	66		47		47	160	
	全国	66		63		63	192		全国	69		51		49	169	
	対全国比	97%		97%		97%	97%		対全国比	96%		92%		95%	95%	
R5 年度	本市	66		59			125	R5 年度	本市	69		49			40	158
	全国	67		63			130		全国	70		51			45	166
	対全国比	99%		94%			96%		対全国比	98%		96%			88%	95%

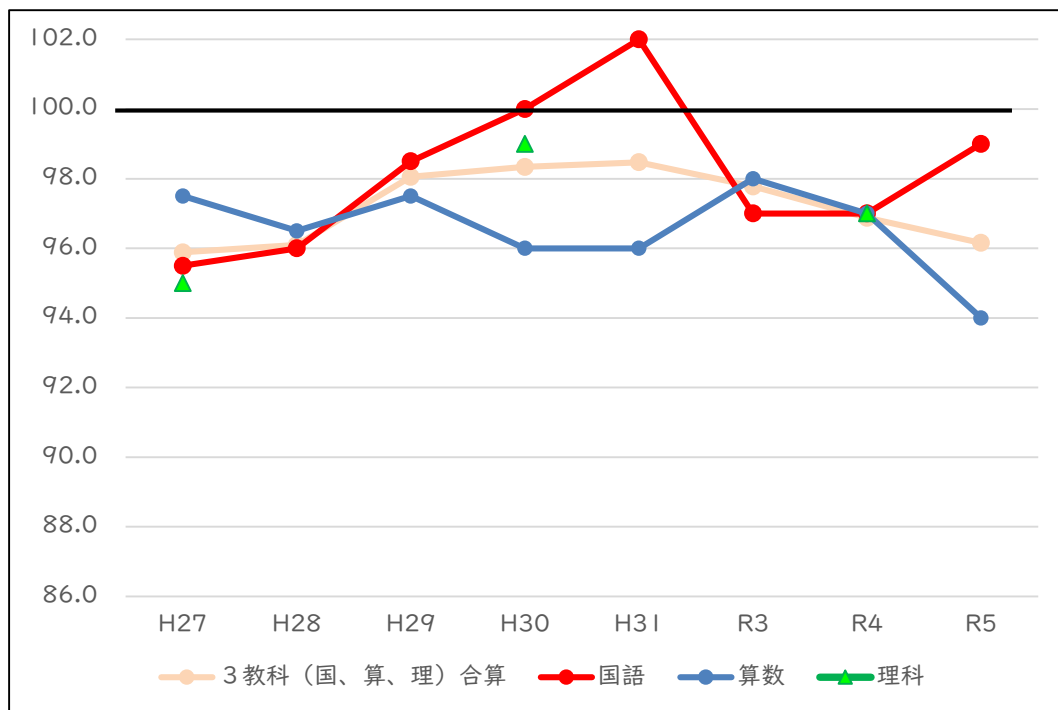
※ 正答率と対全国比は詳細な数値で計算をしているが、表記は小数第一位を四捨五入し整数値にしている。

※ H31年度より従来のA問題(知識・技能等)とB問題(活用等)という区分を見直し、知識・活を一体的に問う調査問題としている。

※ R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、未実施。

■ 全国平均正答率に対する割合 (H27年度～R5年度)

小学校 (国語、算数、理科 (H27、30、R4のみ) 合算)



中学校 (国語、数学、理科 (H27、30、R4のみ)、英語 (H31、R5のみ) 合算)

